

第7回熟議『学校選択制』（8月2日）Aグループ 主な意見とまとめ

【主な意見】

（障がいのある児童生徒の就学）

- 学校の成績、この学校はよくできるというようなことが学校の特色になってきた場合で、発達障がいやその障がいが合わさっている場合に、クラスの平均点が下がるといったことで排除の論理が働かないかということが心配である。
- ここの学校の平均点が良くて、ここが悪いとかいうことが、特に学校選択制が入ると、それだけで選ばれてしまうようなことになってはいけない。様々なテストをしているが、基本非公開というのを、大阪市は貫いているので、そのことによって、障がいのある子どもの排除ということには、繋がらないと思う。
- 学校案内をする際には、学力だけに偏重しないような配慮をして欲しい。
- 忌避意識で障がいのある方を避けるようなことのないよう、ちゃんと配慮して、学校選択制の導入にあたって、学校案内等で公表するのは、学力偏重にならないよう配慮をきちんとすべきである。
- 子どもは学力を避けて通れないと思う。音楽や芸術や好きな事にいろいろな可能性があると思う。これは障がいのある方でも同じだと思う。日本の学力が落ちてきて、大阪は更に落ちてきているのではないかというところで、危機感を持つ為に、選択制を導入すればいいのではないかと思う。基本的に親と学校の先生と子どもが、一緒になって考えていく。その次に校長先生や教育委員会ということになると思うが、どの子であれ何か目的を見つけて勉強する時代が、この小学校中学校だと思う。
- 子ども達の係わりとか、子ども達の優しさとか人間性というのは、例えば昼休みに特別支援学級の子がグラウンドに出てきたら、本当に自然に一緒に遊んでいる。もの凄く温かい、いい雰囲気、本当に子ども達のそういう姿を見ていたら、別にその子が障がいがあるとか無いではなくて、友達同士の関係である。それがやっぱり大事だと思う気持ちがあって、そこに学力というものを挟むとちょっと違うことと思う。
- 健常の子どもさんが選んで抽選でダメだったら、通学区域の学校へ行きました

ようとなるが、障がいのある人がそこじゃなくて、こっちへ行きたいと言って選んだ時に、そこも抽選になるのかという問題はちゃんと論議しておかないといけない。

(学校の情報発信)

- 学校選択制が本当に意味を持つとすれば、我々は、各学校がどんな問題点を持っているのか、どんな実状にあるのかというイメージが描けない、この学校は、ここで苦労している、ここで努力しているという、そういう学校の情報がどんどん出てきて、保護者の方が情報にアクセス出来て、これまでは分からなかったことが、保護者一人一人が理解できるようなものが作れる可能性もあると思う。
- 学校評議の中で、地域役員になってる人は、学力テストも含めて校長先生から聞く。平均点はこうだが、うちの学校ではこういう努力をして、例えば算数であれば、図形の問題の難しかったところを、このようにして取り組んで上げた。委員になっている人達は、学校が今どのような取り組みをして、この評議の中で話をしているか、学校側から評価という流れの中で分かる。きっと学力だけで評価していく風評をするのは、一般の保護者になると思う。PTA の中では、そういうこと踏まえて、今、学校側がこういう取り組みをしていることを委員会などから伝えていくが、末端まで届くのかはちょっと難しいかもしれない。
- 学校選択制をする時に、現在 PTA 等に係わっておられる方は、かなり学校に関心を持って、学校にちゃんと係わろうという姿勢で係わっているのでもういうことを良く理解されると思う。結局、選択の時に風評で流れる層というのは、これまでも PTA 等にもたいして係わっていないような方が中心になると思うし、それが圧倒的多数だと思う。一生懸命、学校側がこういったことに努力していますということをちゃんとアピールしても、これまででもずっと PTA が一生懸命、いろいろな行事などで保護者に働きかけをしてきても、応えてくれない層というのは同じだと思うし、どこまで学校の努力が分かってもらえるのか凄く疑問がある。学校を選びたい層は、割とそっちの方だと思う。自分達の側から学校に求めるものが多い割には、学校にはあまり係わってこない層というのが、選択を望んで行動するとなると、やはり風評が一番の根本になってくると思ってしまう。

(学校と地域の関係)

- 学校にどう係わろうかというのは保護者の意識であり、学校選択制になったら、自分が選ぶ学校だから関心を持つということがメリットとして言われているけれど、はたしてそうかと凄く思う。かえって PTA 活動で、遠い学校を選んだ場合に親御さんがその学校の学校に足繁く通って、その学校の PTA

に参加してとなるだろうかということもあり、それほど保護者間の意識は変わらないのではないかと思います。

- だいたい PTA を卒業されたら、次は青少年指導員とか災害救助隊とかの地域活動に入っていきながら、地域の中に入っていくというのがパターンであるが、例えば校区外の、要するに 1 町会 1 小学校ではないところから来た人が、果たしてそこへ入っていけるのかと思う。
- 選択制があった時にどうするかと思ったら、風評ではないが、いい学校に入りたいと保護者とすれば、絶対に思うので、意見があってもおかしくない。担任の先生で大いに変わるので、校長先生とか教頭先生ではなく、教員の先生の評判が凄く気になる。だから多分何をして、やっぱり学力、ここで学べる、というのが、中学校になったらどうしても気になる。

(自転車通学)

- 中学校、小学校も自転車については、軽車両で、警察の指導も車両、車ということなので、その自己責任ということが非常に強いものになってきている。中学校までは、基本的にやめておいた方がいいと思うし、特に大阪の場合、歩道を走ることの問題も非常に難しい問題になっている。
- 広い区だと、選択する学校の数が少ないから自転車で通わせて欲しいというふうに言ってくる人も出てくるかもしれない。
- 自由選択制にしても、小学生や中学生の体力を考えたら、距離制限か時間制限、どちらにするかはあるが、設けるべきだと議論してきたので、自転車は原則禁止で良いのではないかな。